

6月17日技工士会講演会の抄録を送らせて頂きます。ご査証下さい。

よろしくお願ひいたします。

藤本光治(ふじもとみつじ)

形態・色調・生物学的調和を求めた補綴マネジメント

～ドクターとのコミュニケーションによる環境構築の重要性～

ふじもとみつじ

藤本 光治 (医) 健志会 ミナミ歯科クリニック

- 1985 日本歯科学院専門学校卒
(有) FMデンタルラボラトリー勤務
- 1991 サトウ歯研勤務
- 1994 大阪セラミックトレーニングセンター卒業
(医) 健志会 ミナミ歯科クリニック勤務
- 1997 技工所開業
- 2004 (有) デンタル・クリエーション・アート勤務
- 2006 (医) 健志会 ミナミ歯科クリニック勤務
- 2000 大阪セラミックトレーニングセンター週末コースインストラクター
- 2007 新大阪歯科技工士専門学校専攻科非常勤講師
- 2008 S J C D臨床テクニシャンコースインストラクター
大阪S J C D理事

今日、歯科医療においてさまざまな技術の習得は歯科医師、歯科技工士にとって必須であるが、最終補綴物が患者様にとって満足の得られる色調ならびに形態でなければ最高の治療とは言えず歯科医療の中で占める「審美性」の重要性は言うまでもありません。その中で我々、テクニシャンは形態、色調を調和させる事に全力を傾けるわけであるが、さらにドクターとのコミュニケーションにより補綴物を受け入れる口腔内環境(支台歯及び歯周組織の状態など)を整備していただく事により修復治療を確実に成功へと導く近道になると思います。またミナミ歯科クリニックにおいては、どの様な審美症例においても「1口腔内1単位」の総合診断を行い、炎症「対カリエス・歯周病」および力のコントロールをして審美面はもちろん機能面の永続性を得なければならないというコンセプトのもと診療がおこなわれています。今回、当院での症例(単冠からフルマウスまで)に照らし合わせながら生物学的調和という所を焦点に話させて頂きたいと思います。